

再びその人らしい生活に

# ふれあいひろば

2023年 夏号 Vol.105



愛仁会リハビリテーション病院

三島圏域地域リハビリテーション  
地域支援センター



- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://ajinkai.or.jp

- 1面 コロナ5 類移行に伴う、病院の方針
- 2面 【連載】セラピストだより⑩ / 新たに就任された医師のご紹介
- 3面 地域との連携の中で⑨
- 4面 患者さまだより⑨ / 連載 高槻在宅サービスセンターだより

## コロナ5類移行に伴う、 病院の方針

(面会・ふれあい広場再開について)

院内感染対策室 市橋 卓浩



Visitation restrictions

### 面会制限中



ホームページQRコード



面会制限の詳細QRコード

病院ホームページにも詳細を記載しております

面会時間：平日14:00～17:00(15分以内)

- \*1患者様 1日1回、週2回まで
- \*同居家族もしくはキーパーソンの方で、2名様迄
- \*中学生以上の方を対象とさせていただきます



- 免疫力が弱く罹患時に重症化される方が多数入院されていますので、院内に入られる方は全員**不織布マスクの装着**をお願いいたします
- 不織布マスクを事前にご準備のうえ来院して下さい



- 「来院時」と「帰院時」は備え付けの消毒剤で**手の消毒**をお願いいたします



- 病棟受付にて**体調確認**を行わせて頂きますので、**面会簿(健康調査表)**に記載をお願いいたします
- **発熱のある方、症状のある方**は面会をお断りさせていただきます
- 対面での面会が適当でない(マスク未装着、体調不良等)場合、面会をお断りさせていただきますので、ご了承ください
- 面会終了後(2日以内)の体調不良は、病棟にご連絡をお願い致します



- 他の患者様もおられますので、病室の場合は原則病室の外「テイルーム」での面会をお願いいたします(病室内に入る場合は1名様まで)
- お荷物の持ち込みに関して  
平日 9:00～14:00、土日祝 9:00～17:00 は各病棟スタッフステーションにお声かけください。全日 17:00 以降は1階守衛室にお問い合わせください。
- 面会場所は「テイルーム」をご利用いただけます
- 小児科に関しては、職員にご確認ください
- 状況によっては、急遽面会をお断りする場合があります
- 病院から来院の要請があった場合はこの限りではありません

2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症(以後、コロナ)は、感染症法上の取り扱いが5類となりました。

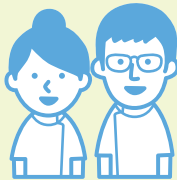
大規模な人流抑制として「緊急事態宣言」で街中から人が消え、流行地域に在住の方が他府県に行くだけで避けられるというようなことも無くなりました。連日テレビで陽性者数の報道も無くなり、マスクを装着しないために飛行機が飛ばないというニュースもありました。制限が緩和されるということは個人的にもうれしい限りですが、やはり一定のリスク(危険)というものが付きまといまいます。

健康な方に関しては「風邪」相当になりましたが、基礎疾患や年齢によっては、死亡率や重症化率が健康な方の数倍以上となるため、病院や施設等では、安全を担保するためにある程度の対策をせざるを得ないという現状があります。制限を解除することによるリスクと、制限を継続することによるリスクが同時に存在しておりますので、ご苦労されている病院、施設の方も多いと思います。

夏といえば、旅行やイベントなど楽しい行事も多いですが、コロナが増加している中では、感染のリスクというものも高くなってきています。

5類移行によってある程度のリスクを受け入れ、交流や社会活動を促進することは必要なことです。当院でも、面会再開や地域交流スペースでもある3階ふれあい広場の開放をしておりますが、病院という性質上、一定のルールというものを設定しております。

まだまだご不便をおかけいたしておりますが、皆様の大切な家族(患者さん)をコロナから守りたいという思いで日々対応しておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。



# 飲み込む力を鍛える 開口練習

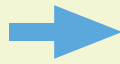
言語療法科 西島 浩二

食べ物や水分などが飲み込みにくくなる要因はいろいろありますが、その一つとして飲み込みに必要な筋力の低下があげられます。加齢とともに、全身の筋力と同じく飲み込みに必要な筋力も弱ってきます。その予防のために大切なことが、適切な栄養と運動です。今では、食べるために必要な口や喉を鍛えるための様々な運動があります。

以前に、自宅で簡単にできる「嚥下おでこ体操」を紹介しましたが、今回も自宅で簡単にできる「開口練習」を紹介します。開口＝口を開ける際に働く筋肉と、飲み込みの際に働く筋肉には同じ筋肉があります。そのため、開口練習をすることで、飲み込み＝嚥下に必要な筋肉を鍛えることができます。



10秒開けて



10秒休憩

5回繰り返します  
1日2セット行います



方法ですが、口を頑張って大きくしっかりと開きます。その状態を10秒間維持し、その後10秒間休憩します。これを5回繰り返して1セットとなります。1日2セット行いましょう。顎関節症や顎関節脱臼の既往がある方は適応になりませんので、ご注意ください。喉を鍛えて、いつまでも安全に美味しく食事を楽しみたいですね。

**頑張って口を開けて、顎の下にある筋肉が固くなっていたら出来ています！**



## 新たに就任された医師のご紹介

診療部 医長 宇都山 欣也

6月16日からお世話になっております宇都山 欣也と申します。

生まれは徳島県で3歳の時に大阪に引越し、その後は茨木市で過ごしました。

社会人経由で、人との関わりを持ちたいと思い川崎医科大学に入学し、卒業後はリハビリテーション医学教室に入局し研修を続けてきました。

認定医取得は慶應大学のリハビリテーション科、月ヶ瀬リハビリテーションセンター勤務の時でした。

義肢装具室を備えており、ミシンやリベット打ちなど簡単な修理や作成を経験しました。患者さまの想いに貢献できるように尽力して参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



訪問診療 / 緩和ケア内科 / 内科

# やまもとホームケアクリニック

〒567-0818 大阪府茨木市本町6-5

TEL.072-625-5287

今回は茨木市本町にある、やまもとホームケアクリニックの山本 誠士先生にインタビューをさせて頂きました。



## 開業された経緯

外科専門医として主にがん診療に携わり、大阪医科大学付属病院(現 大阪医科薬科大学付属病院)、済生会吹田病院などで約20年間勤務され、2年間はむねみつホームメディカルクリニックで訪問診療などの在宅医療にも携わってこられました。

外科医としての勤務医時代から、診察・手術・抗がん剤治療・緩和ケアと、一人の患者さまを先生ご自身で最期まで診療したいと想っておられ、開業を決めたきっかけも、外科医としての臨床経験を活かし、一人ひとりの患者さまに時間を掛けて寄り添いたいという強い想いから、2023年5月にやまもとホームケアクリニックを開業されました。

## クリニックの特徴

通院が困難な患者さまにも対応できるように訪問診療に力を入れておられ、勤務医時代の外科医としての経験や知識を活かした医療処置も可能で、血液検査・超音波検査(エコー検査)・心電図検査にも対応し、健康管理や投薬治療も行いながら在宅生活のサポートをし

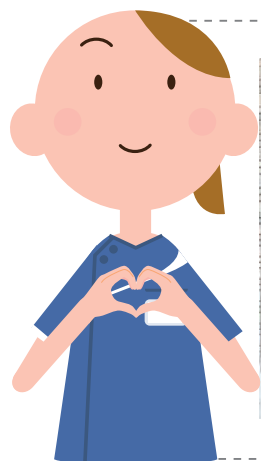
ておられます。

訪問診療では、がんの患者さまが多いとのことですが、認知症や脳卒中後遺症の患者さまにも対応されておられます。訪問エリアは茨木市・高槻市・摂津市・吹田市・箕面市(一部)など幅広く対応され、訪問看護ステーションとの連携により、24時間訪問に対応しておられます。

そのほか、完全予約制で内科・緩和ケア内科の外来診療も行っておられます。緩和ケア内科では、がんに限らず認知症・呼吸器疾患・循環器疾患・神経疾患など様々な疾患にも対応し、患者さまの症状や生活環境に応じて様々な医療機関と連携し、患者さまにとって最善の治療を提供しておられます。

通院ができずお困りの方や訪問診療についてお悩みなどがございましたら、お電話でも対応いたします。とお言葉をいただき、インタビューを通してお話を伺う中で、山本先生は優しいお人柄で何よりも患者さまのことを一番に考え向き合っておられ、先生に何でも相談したくなるような患者さま想いの熱い心を感じることができました。

山本先生 この度はお忙しい中お時間いただきまして誠にありがとうございました。



## \*診療時間

★…外来 (9:00~11:00 完全予約制)

●…訪問診療 (24時間往診可能)

診療時間	月	火	水	木	金
9:00~12:00	★	●	★	●	★
13:00~17:00	●	●	●	●	●

休診日:土曜、日曜、祝日

## \*アクセス

【電車】阪急京都線『茨木市』駅より徒歩約5分

【バス】阪急バス『竹橋町』より徒歩約4分

【車】車でご来院の方は、近隣のパーキングをご利用ください





# INTERVIEW

— インタビュー —

## 4か月間の入院を経て新天地で一人暮らしをされるM様

### 入院当初から退院までの経過

脳梗塞を発症後、元の生活に戻るためにリハビリ目的で入院してこられました。

入院当初は歩行器を使用しリハビリ担当者が付き添って歩行されており、お薬の袋を開けるのもお手伝いが必要でした。脳梗塞の後遺症で言葉が不自由で、コミュニケーションを図るのも苦労されておられました。



▼一人暮らしを想定し行なうこととして、「お薬を自分で飲めるよう袋を開ける練習を行ない自身で開けられるようにする。」「退院までにご家族に協力していただき部屋の間取りを確認、必要な福祉用具、家具の配置を検討する。」「聞く、話す、読む、スマホの文字打ちの練習を続ける。」の3点を挙げ、懸命にリハビリに取り組まれました。

最終的にはバギーを押して一人で歩けるようになり、話しづらは残るものの、ゆっくりとお話できるまで回復されました。

▼ご本人様より、「ここに来た時は口を上手く動かさず話しづかったし、歩くのも大変だった。リハビリの担当の人は厳しい時もあったけど、私のために色々と指導してくれて一生懸命関わってくれました。皆さん親切でしたよ。一人暮らしも大丈夫だと思います。」と話して下さいました。

退院後は、デイサービスやヘルパー、配食サービス、福祉用具レンタルを利用し、息子様の家の近くで一人暮らしをされています。新天地で自分らしく生活できるようお祈りしております。この度はインタビューにお時間いただきありがとうございました。 地域医療部 ソーシャルワーカー 吉田



## 愛仁会高槻 在宅サービスセンターだより

2022年3月には鼻力を続けられたことで、



2020年8月に退院され在宅生活を開始された、80代男性のSさんをご紹介します。Sさんは2019年に交通事故に遭い、体の複数箇所の骨折、硬膜下血種や高次脳機能障がいと診断され、食事は鼻腔チューブによる流動食となり、体はほとんど動かすことができない状態でした。退院後の排泄や移乗など、全てのことを奥様が行うには不安もあり、ヘルパーを利用されることになりました。Sさんはご自宅に帰られると、以前まで当たり前のように行っていたトイレに行けないことをとても気にされ、「いつか自分の力でトイレに行きたい」という目標を持ち、奥様と訪問看護とヘルパーが協力し、意欲を持ってリハビリを続けていけるように関わりました。

高槻在宅サービスセンター ヘルパー科 植村 聡明

に挿入していたチューブが取れ、口から食事が食べられるようになり、更なる意欲の向上が見られました。2022年10月から訪問リハビリを開始され、立ちあがりや車いすへの移乗訓練が始まり、ヘルパーもそれに併せて、リハビリで行っている動作と同じ訓練を行いながら介助に当たりました。現在ではご自身の力で立位保持が50秒行え、付き添いのもと10m程歩くこともできるようになりました。「自分の力でトイレに行きたい」という目標も現実味を帯びてきている状態です。ヘルパーでは家族と利用者さんの心に寄り添い、その人の能力が最大限に引き出せるよう関わり、他職種と連携しながらこれからも支援していきたいと思えます。